

# 25日 土曜

## I サムエル

27:1 ダビデは心の中で言った。「私はいつか、今にサウルの手によって滅ぼされるだろう。ペリシテ人の地に逃れるよりほかに道はない。そうすれば、サウルは、イスラエルの全領土内で私を捜すのをあきらめ、こうして私は彼の手から逃れられる。」

27:2 ダビデは、一緒にいた六百人の者を連れて、ガテの王マオクの子アキシュのところへ渡って行った。

27:3 ダビデとその部下たちは、それぞれ自分の家族とともに、ガテでアキシュのもとに住んだ。ダビデも、その二人の妻、イズレエル人アヒノアムと、ナバルの妻であったカルメル人アビガイルと一緒にあった。

27:4 ダビデがガテへ逃げたことが、サウルに知らされると、サウルは二度と彼を追おうとはしなかった。

27:5 ダビデはアキシュに言った。「もし、私があなたのご好意を得ているなら、地方の町の一つの場所を私に下さい。そこに住みます。どうして、このしもべが王国の都に、あなたと一緒に住めるでしょう。」

27:6 その日、アキシュはツイクラグをダビデに与えた。それゆえ、ツイクラグは今日まで、ユダの王たちに属している。

27:7 ダビデがペリシテ人の地に住んでいた日数は一年四か月であった。

27:8 ダビデは部下とともに上って行って、ゲシュル人、ゲゼル人、アマレク人を襲った。彼らは昔から、シュルの方、エジプトの地に及ぶ地域に住んでいた。

27:9 ダビデはこれらの地方を討つと、男も女も生かしてはおかず、羊、牛、ろば、らくだ、



聖書の記述

また衣服などを奪って、アキシュのところに帰って来た。

27:10 アキシュが「今日は、どこを襲ったのか」と尋ねると、ダビデはいつも、ユダのネゲブとか、エラフメエル人のネゲブとか、ケニ人のネゲブとか答えていた。

27:11 ダビデは男も女も生かしておかげ、ガテに一人も連れて来なかつた。「彼らが『ダビデはこういうことをした』と言って、私たちのことを告げるといけない」と思ったからである。ダビデはペリシテ人の地に住んでいる間、いつも、このようなやり方をした。

27:12 アキシュはダビデを信用して、こう思っていた。「彼は自分の同胞イスラエル人に、とても憎まれるようなことをしている。彼はいつまでも私のしもべでいるだろう。」

ダビデは逃れて異邦人の王に助けを求めました。それは神を侮る人の力を借りたということで、その後のダビデの行動と無関係ではありませんでした。彼は自分を助けるために、敵ではありませんが神に聞かずに攻め、さらにはユダすなわち同胞を攻めたと偽り、異邦人の王からの信頼を得ていたのです。

ダビデほどの人でもこのような堕落や偽りに陥るということを知っておくべきでしょう。世の中の権力のもとで生きるとはそれほどに難しいものです。神もダビデをあわれんで、後に彼を助けました。自分も弱さを持っていることを謙遜に認め、他の人を裁かず、そして互いに励まし合うために、神のあわれみを語り合いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

